

春の訪れ

2月4日は立春（24節気のひとつ）です。暦の上では春ですが、まだまだ寒い日が続いています。立春後の寒気を「余寒」というそうです。これから少しずつ実感を伴う春に近づいていきます。春を「予感」します。

さて個人的な話になりますが、私は花をみるのが好きです。時間さえあれば長い間見続けることができます。また、日本には四季があり、春夏秋冬それぞれを代表する花がありますが、四季折々の花を楽しむことができるのは本当に幸せなことです。

日本人の多くの人が、一体どんな花が好きなのでしょう。各種意識調査やアンケート結果を可能な限り調べてみました。概して、次にあげる花が大勢の人々の支持を集めているようです。

「桜（サクラ）」「チューリップ」「薔薇（バラ）」「紫陽花（アジサイ）」
「朝顔（アサガオ）」「向日葵（ヒマワリ）」「秋桜（コスモス）」

もちろん、自分が好きと思う花こそが、やはり何ととっても一番です。人それぞれに花にまつわる思い出がきっとあると思います。春の花が好きの方がいれば、秋の花に心を寄せる方もいることでしょう。

ところで、イギリスの詩人シェリーの詩の一節に「冬来りなば春遠からじ」というものがありますが、いつか訪れる春を思いながら、この厳しい冬を乗り切ろうとする気持ちが伝わってきます。イギリスと日本では気候や環境は異なりますが、それでも、冬の厳しい寒さにじっと耐え、蕾が膨らみ、そしてようやく花を咲かせる姿にどうしても感情移入をしてしまうのです。春の花に対しては、そんな特別な思いがしてなりません。

現在、本校の敷地内を見渡しますと、紅梅・白梅、水仙、パンジーなどの花が咲いています。全国を見渡せば、花の名所と言われる場所があります。私もいくつかそうした場所を訪れ、花を観賞したことがありますが、どれも見事なものでした。但し、どこであっても花そのものの美しさ・可憐さは変わりません。自分が気に入った花・場所、それこそがその人にとっての名所なのではないのでしょうか。人それぞれに好きな花、お気に入りの場所があると思います。私にとって、本校の花はその一つです。